

科目名		呼吸発声発語系の構造・機能・病態			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	前期	必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

呼吸・発声・発語系器官についてその構造および機能について学び、聴覚障害、音声障害、言語障害を理解し、言語聴覚士に必要な知識を習得する。

〔授業全体の内容の概要〕

呼吸・発声・発語系器官の構造および機能、発声発語器官の疾患・病態。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

本科目は言語聴覚の根幹を成すものであり、したがって学習者に相応の努力を（毎回の予習と復習）が求められる。そのため授業への集中度をチェックする方策を導入する。

回数	講義内容
1	呼吸器系の構造①
2	呼吸器系の構造②
3	呼吸運動
4	呼吸機能検査
5	呼吸器の病態・疾患
6	喉頭の構造
7	喉頭の構造・機能
8	喉頭の検査
9	喉頭の病態・疾患
10	構音器官の構造
11	構音器官の構造・機能・運動
12	構音器官の検査
13	構音器官の病態・疾患
14	呼吸発声発語器官の障害
15	まとめ

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第2版		医学書院

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。